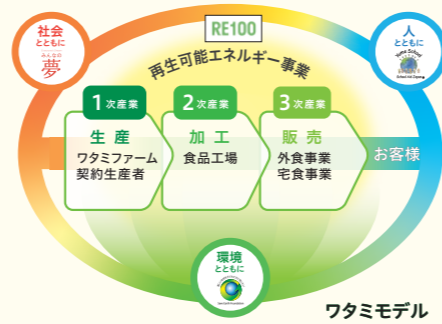


社員一人ひとりの自分理念と行動力でSDGs日本一、ワタミモデル実現へ

2023年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが、季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行し、旅行や外食業界に活気が戻りつつあります。一方で、円安やエネルギー価格の高騰、輸入穀物や肥料原料等の価格上昇が続いています。そうした中で、ワタミが目指す「持続可能な社会」[ワタミモデル]をいかに実現していくか。代表取締役会長 兼 社長 渡邊美樹と、執行役員SDGs推進本部長 百瀬則子の対談で紹介します。



代表取締役会長
兼 社長
渡邊 美樹

執行役員
SDGs推進本部長
百瀬 則子

前進するワタミモデル、漁業にも進出

百瀬 ささまざまな社会課題が山積する中であっても、再生可能エネルギーを利用した循環型6次産業「ワタミモデル」実現に向けて、ワタミグループは確実な歩みを続けています。社会環境の変化に対して、何か対策していることはありますか。

渡邊 自分たちがやるべきことをやる。それだけです。私たちが取り組んでいる一次産業は、農業なら化学肥料や農薬を使用しない土壌づくりから始める有機農業ですし、酪農も主に有機栽培の牧草で牛を育てているので、肥料や飼料の価格変動で右往左往することはありません。ただし、手間はかかりますし、効率がよいとは言えません。肥料や農薬を使えば虫に喰われることもなく大量に収穫できますし、牛たちには冬の間も夏に刈り取って乾燥させておいた牧草を食べさせていますが、穀物飼料を与えるほうがよほど楽です。でも、それはしません。

百瀬 本当に大変だと思いますが、どの農場でも全スタッフが信念を持ってやっていますよね。

渡邊 楽をする方法はいくらでもあります。農場に蝶々が飛んでいたり、放牧している牛たちがすごく穏やかな顔をしていたりするのを見ると嬉しいじゃないですか。何より、安全でおいしいものが収穫できます。それを多くの人に届けたい。約300ヘクタールの広大な敷地でのびのびとストレスなく育つ牛のミルクはおいしいですよ。「美幌グラスフェッドアイス」の通販もスタートしたので、たくさんの人に食べていただきたいですね。

百瀬 日本ではグラスフェッドミルクを使った製品は少ないので、楽しみですね。環境や生物多様性に配慮した持続可能な生産方法で、生態

系を守りながらおいしいものが食べられるって、素晴らしいことだと思います。

渡邊 そうでしょう。農業、酪農に加えて、漁業にも取り組んでいきたいと思っています。

目先の利益を求めめるのではなく将来を見据えて、持続可能な漁業というものにしっかり向き合っていきたいと考えています。そのため、共通の思いを持って取り組める提携先を探し、いくつかの漁協と話を進めています。

百瀬 持続可能な漁業、すごく良いですね。

渡邊 もう一つ、林業についても公益財団法人 Save Earth Foundation (SEF) の活動を通して行っている森林の再生、保全、活用。こちらもしっかり進めています。

百瀬 二次産業で新たな動きはありますか。

渡邊 最近の動きとしては、7月に冷凍総菜の工場が完成しました。本格的な自社生産体制ができてきたので、新商品の開発にも力を入れていきます。

百瀬 ワタミの事業の根幹でもある販売、三次産業はいかがですか。

渡邊 外食はコロナ前の売り上げの90%位まで戻ってはいますが、二次会利用がない、多人数の宴会が少ない、深夜帯が弱い。さらにお客様の消費行動を見ていると、仕事終わりに数人で「1杯飲みに行こうか」といってふらっと立ち寄るというケースは激減しています。この現実としっかり向き合う必要があります。そのうえで、出店を再開していきます。現在計画しているのが、インパウンドを取れる場所を中心に国内で5店舗。海外での出店も強化し、15店舗を予定しています。

循環型社会への取り組みをさらに強化

百瀬 ワタミの循環型社会への取り組みは非常に先駆的なもので、中でも食品リサイクルとプラスチックリサイクルについては、社会課題として重要視される以前から取り組みを始めています。

渡邊 食品ロスに関して言えば1998年にアメリカのカジュアルレストラン&バー「TGIフライデーズ」と提携したことで、食べきれないものはドギーバッグで持ち帰るとい、日本にはあまり馴染みのなかった習慣を取り入れて、ワタミの文化として根付いています。

百瀬 「TGIフライデーズ」のドギーバッグ、おしゃれですよ。赤いパラフィンペーパーがあらわれていて、ちょっとしたお土産みたいに見えます。

渡邊 そういう格好良さも大事なのでしょうね。

百瀬 外食店舗での調理くずや食べ残しなどの食品残さを回収し、家畜飼料や堆肥に再生する食品リサイクルループは名古屋で始まり、今期は新潟市の食品リサイクルループが国に認定され、ワタミで3件目になります。2023年からワタミ本社のある大田区との取り組みもスタートし、近隣のスーパーやホテル、外食店舗、区役所とも協働します。

渡邊 賛同いただく企業や店舗が増えるのはありがたいことですが、現

場の意識はまだ足りません。最近、各店舗で廃棄量を計量するようになり、リアルな量を知ることで少しずつ変化が見えており、いずれは「昨日の廃棄量は20kg、今日は15kgを目指す。無駄なく、美味しく食べていただく」といった話を当たり前にするようになって欲しいですね。

百瀬 宅食のプラスチック弁当箱の回収リサイクルにも力を入れています。それは日本はもちろん世界でも画期的な事業です。最近の進捗状況はいかがですか。

渡邊 愛知県で自社回収を始めた2019年度は85tだったリサイクル量が2022年度は828t(昨年の環境レポートの記述より)と、10倍に迫る勢いです。ただ、それでも回収率は60%ほどなので、さらに強化していきます。廃棄焼却によるCO2を削減し、海洋プラスチック汚染を防止する取り組みです。ただし、回収には手間もコストも掛かっていますが、事業による地球環境汚染を防ぐことは、1999年に出したワタミ環境宣言「美しい地球を美しいままに、子どもたちに残していく」を正に実行していることです。



「TGIフライデーズ」のドギーバッグ

「人権方針」とその実践は、人を大切にするワタミらしい取り組みです

百瀬 2023年1月に「ワタミ人権方針」を発表しました。また人権デュー・ディリジェンスの取り組み強化は、ワタミモデルの実現にも欠かせないことですね。

渡邊 もちろんそうなのですが、私はこれまで「人間は成長する権利と、幸せになる権利がある」ということを繰り返し述べてきました。その権利が失われているのであれば擁護する必要があり、実際に公益財団法人 School Aid Japanを通してカンボジアやバングラデシュで学校建設や就学支援を行い、多くの子どもたちの学ぶ権利を擁護し続けて

います。労働環境の改善やハラスメント防止も大切ですが、そうした基本的な人権方針の、その先にあるものを目指していきたいですね。

百瀬 ワタミらしさ、ワタミにしかできない人権尊重の取り組みが必要だということですね。

渡邊 そうです。例えば、有機農業の取り組みも、プラスチックの容器回収も、食品リサイクルも、「これをやりたい、やらなければ」という、取り組みの根幹になる出来事があり、それぞれに真正面から向き合ってきました。人権方針も社会的に必要とされているから取り組むわけではなく「地球人類の人間性向上のためのよりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること」というグループミッションを掲げ、人が成長できる環境、もしくはそのきっかけをひとつでも多く提供できる企業でありたいと思うから、取り組むのです。

社員一人ひとりの自分理念、生き方を問う

百瀬 SDGsの達成期限、2030年まであと7年です。SDGs日本一を目指し、社内各部署の取り組みにも力が入り、部署間の連携も進んでいます。

渡邊 タスクフォースを編成したことで、同じ目標に向かって部署を越えた関わり方ができるようになってきましたが、まだ十分とは言えません。ワタミモデルにしてもSDGs日本一にしても、「会社が推進しているから」という意識ではだめです。大切なのは「自分はどうか」、「自分はこういう生き方をしたい」という自分理念があり、そこにワタミの事業が重なった時に自らの生きる力として最大の力を発揮することができる。ここからは、「自分はどうか生きるか、何がしたいか」という、社員一人ひとりの自分理念、生き方が問われると思います。

百瀬 自分理念について、あらためて考えてみる必要がありますね。

渡邊 自分理念は複数あってもいいんです。その中にひとつ共感・共鳴できるものがあれば、同志として同じ目標に向かって行動できます。その行動の原動力になるのが、自分理念です。すでに、ワタミモデルのパーツはほぼできあがっています。SDGs日本一の達成、ワタミモデル実現に向けてこのパーツをしっかりとつなげていく必要があります。何より

重要なのが、社員一人ひとりの意識と価値観、そして行動力です。

百瀬 パーツをつなげていくには、自分がやりたいこと、やるべきことだけを意識してはだめですね。

渡邊 その通りです。一次産業に携わるスタッフが三次産業を意識する、三次産業に携わるスタッフが環境を意識する。さらに、環境保護活動や途上国の教育支援、夢の実現を支援する3つの公益財団法人。それぞれが互いを意識し合い、つながり、循環する。その過程で、そこに関わる社員やすべての人が人間的に成長していく。それが、真のワタミモデルが目指す世界であり、その完成に向けて私たちは決して歩みを止めることはありません。

百瀬 私達はこれからもお客様、ステークホルダーと一緒に業界トップランナーとしてSDGs日本一を目指します。



ワタミファームの社員と